

式辞

厳しかった十勝の冬もようやく終わりを告げ、季節は次第にさわやかな春に向かって動き出しているように感じられます。卒業される地域教養学科21名、生活科学科栄養士課程31名、社会福祉科子ども福祉専攻64名、同じく、介護福祉専攻17名、総計133名の皆さん、ご卒業まことにおめでとうございます。この良き日に、令和4年度第62回卒業証書・学位記授与式を挙行できますことは卒業される133名の皆さんはもとより、本学教職員ならびに関係者にとってもこの上なく幸せなことと思っています。また、保護者の皆様におかれましても、お喜びはひとしおのことと存じます。

さて、皆さんにとってこの2年間の学生生活はどうだったでしょうか。コロナ禍の最中、してみたかったことのどれだけができたでしょうか。嫌なことや面白くないことばかりの年月だったかもしれませんね。しかし、どれだけ「気の毒」だと思われてみたところで、時間が戻ってくる訳ではありません。この状況の中で皆さんがどれだけ成長をとげて、社会にでていくことができるのか。それこそが、本日に至るまで皆さんが価値のある充実した経験をしてきたのか、その証明になります。そしてそれができている皆さんだった、と私たちは今、誇りに思っています。どうか、自信を持って何事にも屈することなく、力強く社会に飛び出していただく。

昨年、京都にあります大谷大学の学長・一楽真（いちらく・まこと）先生のお話を聞く機会がありました。その中で、『ネルソンさん、あなたは人を殺しましたか？』という書物の紹介をしていただきました。読んだことのある方もいるかもしれませんが私も、それにならって皆さんに少し紹介をしてみたいと思います。

小学校の教員をしている古くからの友人ダイアンの紹介で小学校に出向き、そこでこの書的主角アレン・ネルソン氏がベトナム戦争の体験談を語る機会を得ます。その時、最後に子ども

たちからの素朴、かつ率直な質問で、「ネルソンさん、人を殺したことはあるのですか？」と問われるわけです。それまでそんな場面を語るのを微妙に避けていたネルソンさんでしたが、どうしようもなくなり、呟くように〈イエス〉と答えます。それに対し、質問を投げかけた女の子は泣きながら「可哀想なネルソンさん」と抱きしめてくれた、といいます。

それから彼は戦争の真実を伝えるための活動を始めることになりました。いわば、ネルソン氏が「人間」になった瞬間がそこにあった訳です。殺した人間の耳を削（そ）いで、それを成果として誇らしく集めていく。日常で人を殺してしまうと殺人犯ですが、戦争で人を殺すと英雄になる。そんなありようを示してしまう人間の情けなさ、不甲斐なさ、そして残酷さが戦争にはあるわけです。もっとも彼は濠（ほり）の中で現地の一人の女性の出産にたまたま出くわし、人間の〈いのち〉の神々しさに触れていくことになり、人間らしさを取り戻していくことになります。

長々とお話ししました。人は簡単に「人」でなくなってしまうし、ある意味、「人であることの難しさ」をネルソン氏はこの書で説いてくれていると思うのです。

私どもの「建学の精神」では「命の大切さ」を浄土真宗・親鸞聖人が教えてくださっているのですが、皆さんはこのような命について色々考える機会を、他の同世代の人たちよりも多く持ったと思います。その分、命の大切さ、他者への思いやり、生きることの意義、そして何より人間になることの難しさに様々な局面でぶち当たってきた、と思います。すぐに私たちは人から離れてしまう。昨今の多くの狂気に満ちた事件を見れば、いうまでもないかと思っています。私たちは常に人になる難しさを学んできたと言ってもいいのだらうと思います。

今、ウクライナで起きている生死の境界に於けるリアルな光景を、私たちは懸命に想像してみなければいけないのです。そして、そこに尊厳ある数多くの命が儚（はかな）く散っていったことへの憤りを持たねばいけないのです。そう思っています。

皆さんはこれから社会に出て、帯広大谷短期大学で学んだ知識や技術を使いながら、様々な不

条理とぶつかり合っていくことになります。しかし、皆さんの一番大きな財産は今申し上げたような、人としての「優しさ」、そして「尊厳」を学んだことにあります。どうか、どんな時にも、大谷の根源的な学びを忘れずに生き抜いてください。時代は皆さんが思っている以上に厳しく、そして残酷だと思います。しかし2年間この学舎（まなびや）で学んできた皆さんなら、乗り越えていける、そう信じています。

最後になりますが、配信で御覧いただいている保護者の皆様におかれましては、今までご苦労が多かったことと、ご推察申し上げます。しかし、間違いなく卒業生はこの2年間でたくましく成長を遂げ、新しい人生に今、旅立とうとしています。暖かく、時には厳しく見守っていただけると幸いに存じます。2年間、私どもの教育にご理解をいただき、支えてくださったことに、改めて厚くお礼を申し上げます。

卒業生の諸君、ご卒業おめでとうございます。素晴らしき人生を、皆さんの未来に幸あれ、と心から願っています。

令和5年3月17日

帯广大谷短期大学 学長 田中 厚一